



第89回(平成25年9月11日)定例会の研究発表要旨

手稲の郷土史研究から学んだこと

前田 水落 恒彦 氏



私は、この研究会創立まもなく入会させて頂き大変勉強になりました。この研究会は「面白くて為になる勉強会」なので、ほとんど欠席せず頑張りました。

一番はじめのお話は源義経が手稲山に金のかたまりを埋め、一ノ宮先生があと少しで手が届くまで掘ったというお話でした。このお話は大変好評で老人福祉センターや他の区からも招かれてお座敷がかかっています。是非この会でお話してほしいと思います。

源義経が東北で戦死した事はほぼ確かであるのに、鎌倉幕府の日記では、將軍頼朝が、首実検した記載がない為、義経の北海道、果てはモンゴルに行った伝説が作られてきたのです。「文献歴史学」の盲点をついた伝説でした。

入会した時、茂内会長の『札幌むかしばなし』その後『手稲歴史年表』等、大変な労作の積み重ねのうえに、貴重な「史料」が作成されています。

私も手稲史の研究としてベルンハイム博士の「史料分類学」の応用として、手稲高台の手稲墓地の「墓碑銘」の研究を報告しました。その時、ベルンハイム説について説明をぬいていたので、今回要点を掲載しました。参考になれば幸いです。

手稲山のふもとの六千年前の縄文遺跡の発掘現場を野村武雄先生の説明を受けながら、見学しました。歴史研究では初めての経験でした。その時、ふと思った事は縄文の子供が「おとうちゃん、あの山(今の手稲山)何ていうの?」と聞いたら何と答えたか?

その後四千年後に来たアイヌ民族は、テイネヌブリ等とよんできました。アイヌ地名に縄文時代の言葉がどう受け継がれたか、てがかりはつかめませんでした。全国的研究では東北・関東に糸口はありますが、縄文語と言われるものはないという事を学びました。

(資料)

1. あづまかがみ(東鑑・吾妻鏡)
2. ベルンハイム博士「史料分類学」
3. 平成19(2007)年、水落報告の表紙
4. 日本語の起源

☆ 催し物案内 ☆

● アイヌアート展

石狩尚古社所蔵のアイヌ関係の芸術品を展示しています。

期間：平成25年8月4日～11月3日

入場料：無料

会場：石狩市本町3 石狩尚古社

* 見学される方は、予め電話(0133-62-3380)で確認して下さい。

● 札幌軟石発掘大作戦「手稲編」

手稲神社を見学したのち、バスで手稲前田に足を延ばし、軟石調査を行います。

日時：10月20日午後1時、JR手稲駅自由通路「あいくる」集合

参加費：200円

* 希望者は、氏名・連絡先・「軟石発掘隊員希望」を明記して、ファックス(011-895-0082)でお申込下さい。

江戸文化と芸術・芸能の関係について

前田 中山 恒雄 氏



§ 芸術芸能につながる人間性

本来人間は仲間を作り交流の手段として笑いを伴った飲酒歌舞の行為をとっています。古代をみても日本の神話での「天の岩戸」での祭り行事、西洋でもギリシャ神話にある祭での合唱歌コモディア（現在のコメディ）の行事など普通の人間性を表わしています。

§ 人間同士の情報伝達の手段

古代から人への情報伝達の手段として話部や客寄せに囃子カタリベを用いたりして歩いた人達がいきました。また文字の発達していない時代には絵をもって伝えていました。平安期の絵屏風や絵般若心経など現存されています。

§ 芸術芸能が人に感動を与え、心を豊かにし、心に安らぎをもたらし、物質文明から人間性への回復に寄与しているのは、それらの原点に宗教の存在が影響しているといわれています。

§ 宗教の権力者から庶民への変革

宗教は歴史の時代の変革期に学問的仏教から貴族の祈祷化教へ、また武家社会になると個人救済へと移っていったのは庶民が時代の変革に災害を含め絶望のどん底から魂の救済を求め悪条件を乗り越えて伸張していったこともその背景としてあったといえます。

§ 宗教の布教技術から話芸への転換

宗教における各宗派の布教活動として説教師がタレント化してきました。代表的な人物として浄土宗の安楽庵策伝和尚が「醒醉笑」を残し、落語の祖といわれ、その他説教に節をつけ音曲へとつながっていきました。話芸として読む芸（講談）、語る芸（節が出来て長唄義太夫浄瑠璃）話す芸（落語）が生まれていきました。

§ 芸術芸能の発展を支えた江戸文化

前述の節談説教をうけて発展させていったのは約 3 百年続いた平和な江戸時代の文化がその背景に存在していたからです。

江戸期は世界一の識字率であったといわれ庶民の教育機関の「寺小屋」制度が充実していたことによります。「日本教育史」資料によると足利時代からの記録に始まり明治初期には約 1 万 7 千軒もありましたが実際は筆子塚の数からすればその数倍に達していたのではないかとされています。その他に社会制度により晩婚化、早い隠居化が増加し、芝居小屋の繁栄遊廊制度など芸術芸能を支える庶民の力が発展させていった背景が浮かびあがります。

江戸時代の文明はその他にも活版技術の向上による黄表紙読本など印刷技術の向上、その本の挿絵画から葛飾北斎など美人画風景画の浮世絵が生まれました。現在のアニメ文化もその挿絵が原点といわれています。この日本の状況は戦争に受けられ、権力者から生まれた西洋の芸術等との間に相違点があります。

その他、猿楽から発展した能楽は代表的な古典芸能ですが、江戸期に大きく発展した代表的なものに歌舞伎があり、初期の音曲踊りの阿国歌舞伎からストーリー制を確立した「荒事」の市川団十郎、「和事」の坂田藤十郎等により完成し、落語も江戸期に寄席が始まり、現代へと継承されていきました。

§ 最後に江戸文化は封建時代の為、西洋への近代化に遅れをとったという人もいますが、この時代に訪れた多くの西洋人が江戸文明の土木建築、天文測量、多く残されている算額から高等数学のレベルに驚嘆する文献が発表されています。この様に多くの江戸期の諸文化が、現在の芸術芸能へと花が開く背景にあったという事実について理解しておく必要があると思います。

次回の予定

次回（11月13日）は、北海道ボランティア・レンジャー協議会会長春日順雄氏の講演「命を紡ぐ～植物を例に」と立花顕次氏の研究発表「軽川にあった日石」を予定しております。

会場は、視聴覚室です。